基礎理論(3)
情報の非対称性と逆選択

社会保障論

No.4

麻生良文

内容

- 情報の非対称と逆選択：概要
- 逆選択のモデル分析
- 逆選択の事例
- 政府介入のあり方
- シグナリング

レモン（不良品）の市場

- 取引される中古車の品質についての情報
  - 売り手は良品か不良品を知っている
  - 買手は良品か不良品かの見分けがつかない
- 買手は価格をもとに中古車の品質を推測
  - 価格が本来の機能（効率的な生産者，緊急度の高い消費者を選別）を失ってしまう。
- 逆選択(adverse selection)
  - 超過供給→価格の下落 → 流通する財の品質の低下 → 消費者の予想の変化→価格の下落→一層の品質の低下
  - 最悪の場合，市場取引が行われない事態

逆選択　adverse selection

- 保険市場
  - 医療保険，年金保険，自動車保険（自動車事故に対する賠償），失業保険
- 金融市場
  - 高い金利→不良な借り手をより多く残す
- 逆選択に対する対応
  - シグナル
    - 品質保証，鑑定書，優良な取引相手であることを相手にわからせる
  - 保険加入者の行動が繰り返し観察できる場合は過去の履歴から顧客のリスクに応じたグループ分けができるかもしれない
- 公的介入の根拠
  - 公的医療保険，公的年金保険，失業保険
  - 公的金融　中小企業，住宅ローン，奨学金・教育ローン

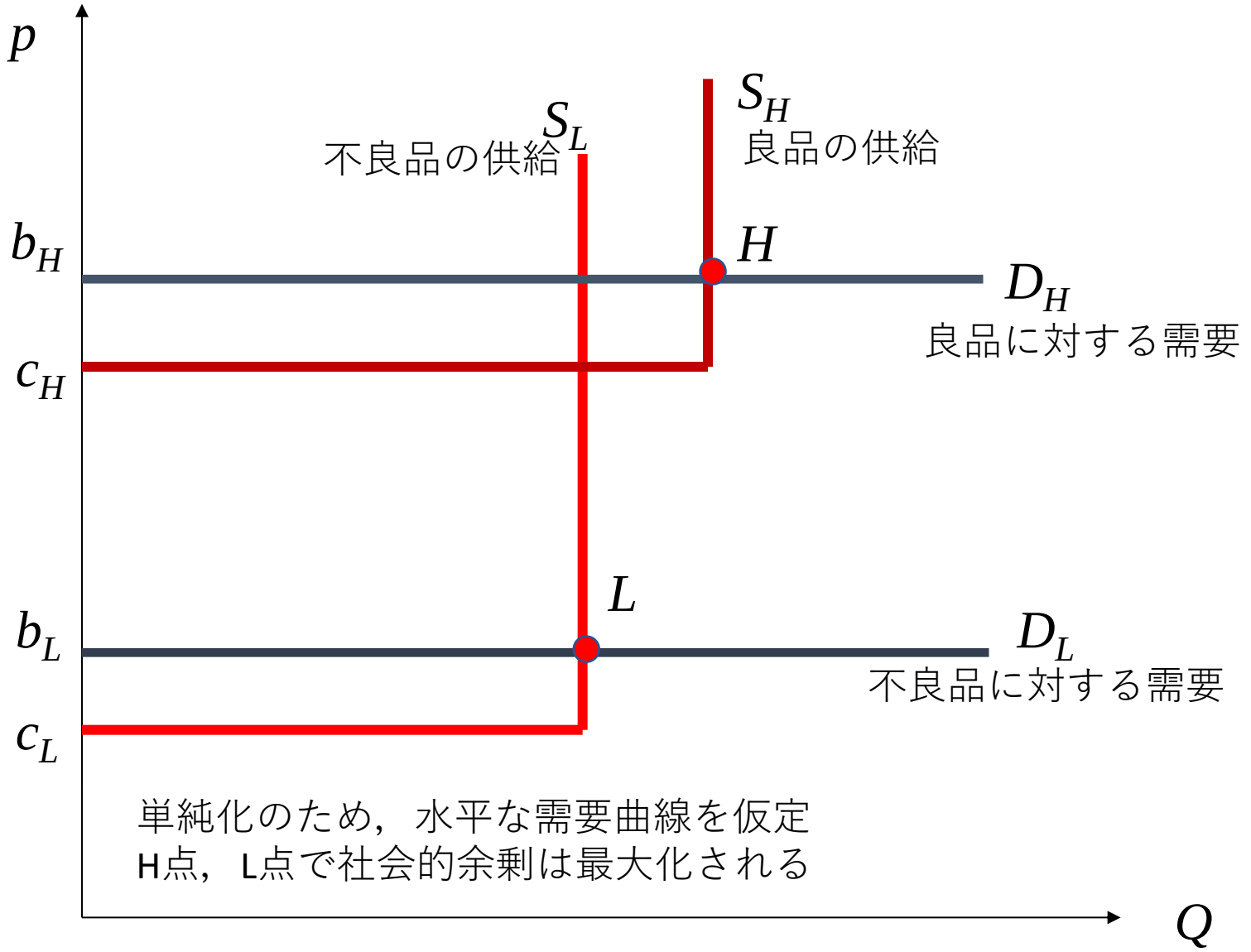
モラル・ハザード moral hazard

- 保険の存在が，経済主体の行動を変えてしまう
- 火災保険→火災防止のための注意
- 医療保険→健康に対する注意
- 年金保険→老後に長生きするように健康に十分注意を払うこと？
  - 保険会社にとってはハイ・リスクの加入者の増加
- 失業保険→職業能力の開発・訓練を怠る
- 保険会社が保険加入者の行動を完全には把握できないことに原因がある
  - 隠された行動(hidden action) の問題
  - 対処方法：不完全な保険を提供
  - 加入者の履歴に応じた保険料（および給付）の改訂
    - 自賠責保険，火災保険など

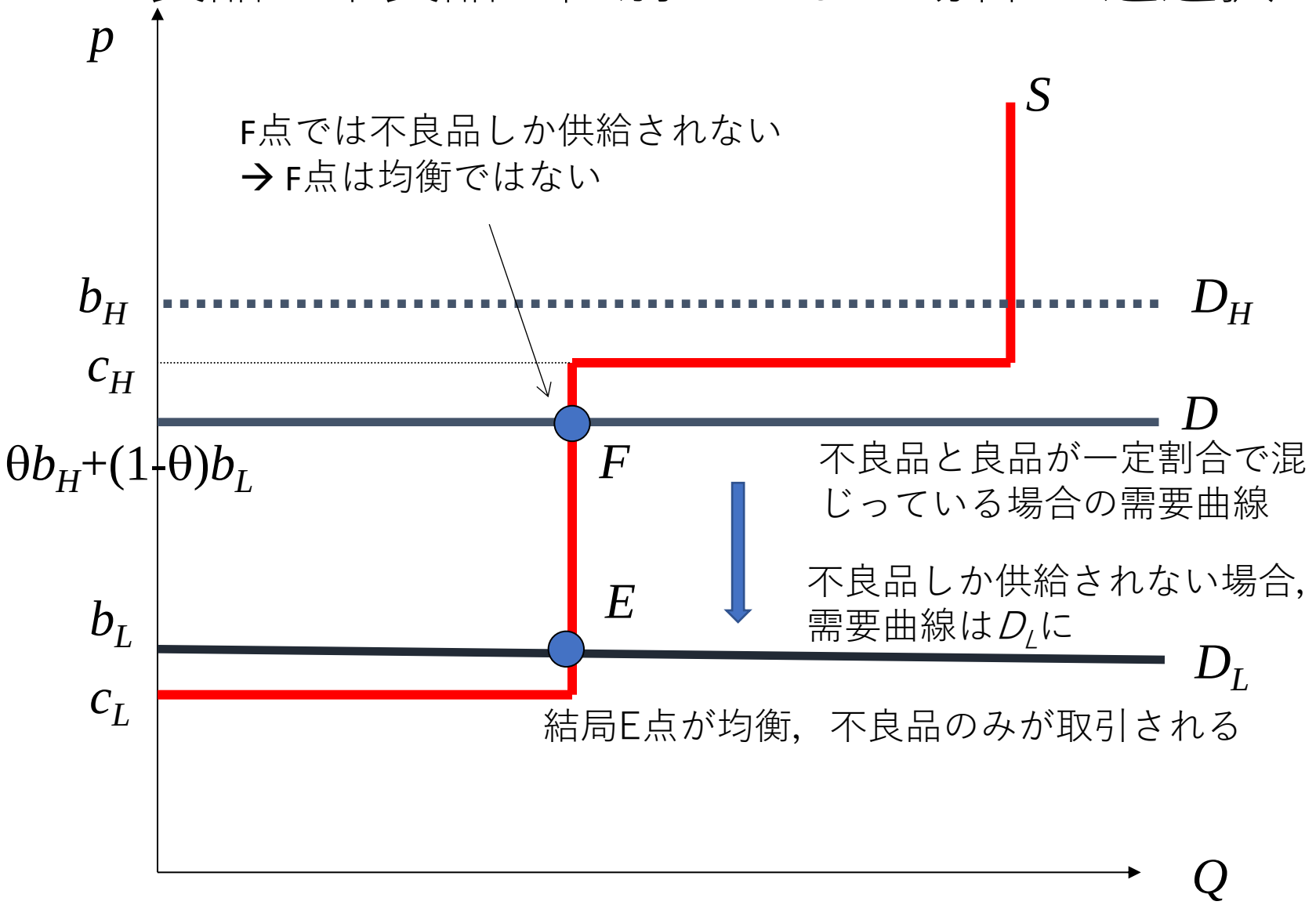
逆選択のモデル分析

- 中古車市場
  - 良品と不良品の2種類の中古車が存在
- 売り手
  - 中古車の品質を区別できる
  - 不良品の仕入れ価格 < 良品の仕入れ価格
  - 不良品，良品の総供給量は一定
- 買い手
  - 良品の場合に買ってもいいと思う価格 > 不良品の場合に買ってもいいと思う価格
  - 良品と不良品の区別ができない
  - しかし，市場に出回っている中古車の平均品質は観察できる
  - 市場価格と平均品質をもとに買うか買わないかを判断する

良品と不良品が区別できる場合の市場均衡



良品と不良品が区別できない場合→ 逆選択

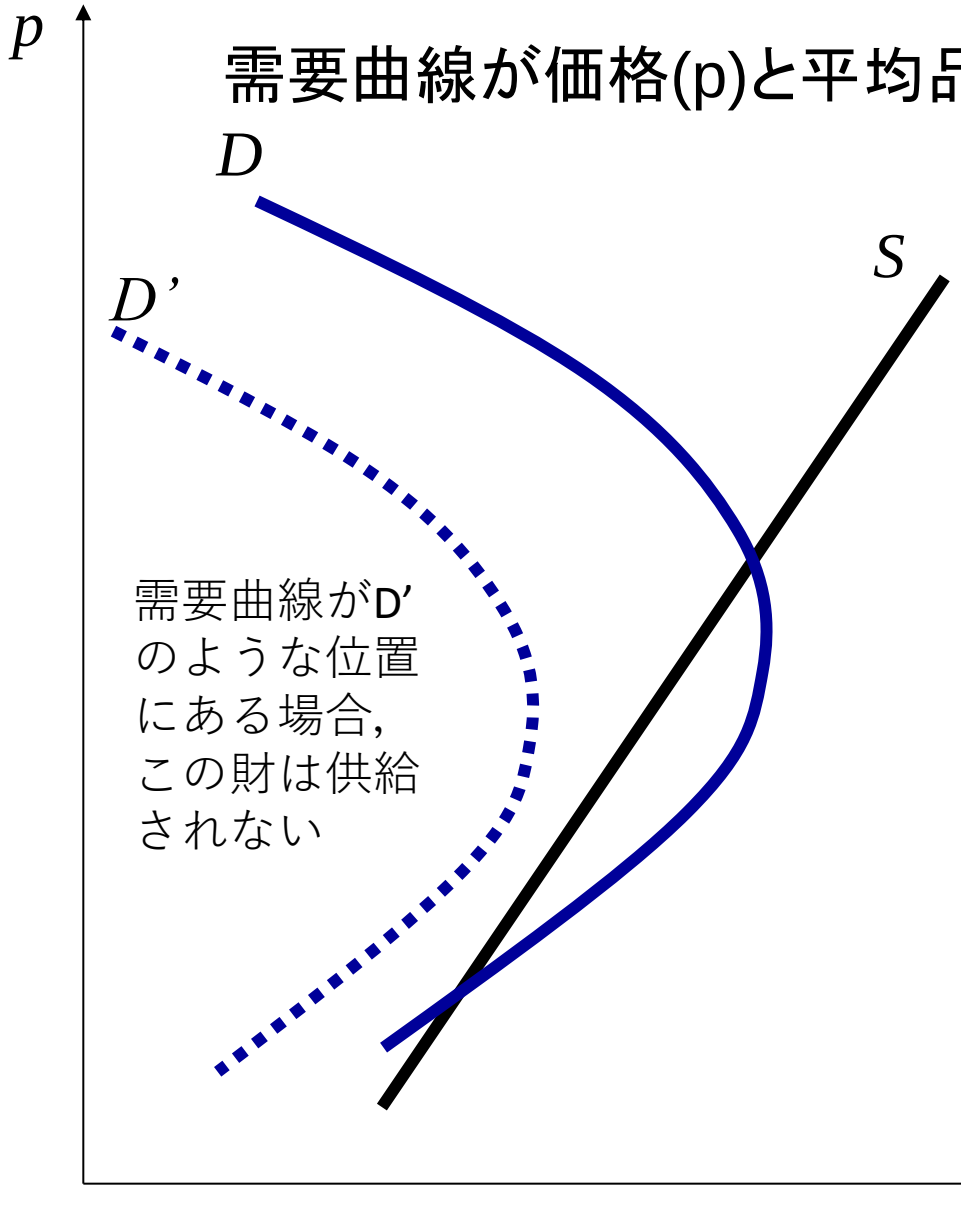


注意：常に逆選択が生じるわけではない（Dの位置に依存）

逆選択のモデル分析(2)

- もう少し一般的なケース
  - 消費の増加→ 限界便益逓減 のケース
- 買い手
  - 需要関数　財の価格(p)と財の平均品質(q)に依存する
    $$Q^d = D(p, q)$$
  - qが一定なら，pの低下は需要量を増加させる
  - pが一定の場合，qの低下は消費者の限界便益を低下させる → 需要曲線の下方（または左方）へのシフト
- 売り手
  - 高品質の財の供給には高い限界費用がかかる
    - 財の価格が低いと高品質の財は供給できない
    - 財の価格の上昇（下落） → 供給される財の品質の上昇（下落）

逆選択



需要曲線が価格(p)と平均品質(q)に依存

pの低下→平均品質qの低下→消費者の限界便益の減少（需要曲線の下方もしくは左方へのシフト）

需要曲線　D(p, q(q))

qはpの関数(pの下落はqを低下させる）

pの低下→qが一定なら需要の増加

しかしqも低下→p一定のもとでの需要の減少（需要曲線の左方へのシフト）

→ 需要曲線は左のように屈折するかもしれない

資金市場における逆選択

- 貸手と借手の間の情報の非対称性
  - 良い借手 → 返済の意志のある借手
  - 悪い借手 → 返済の意志の無い借手
  - 貸手は，借手が良い借手か悪い借手かわからない（統計的にしか判断できない）
  - 借手は，もちろん，自分が良い借手か，悪い借手かはわかっている
- 情報の非対称性の無い資金市場における金利
  - 事業の収益率の高い借手に優先的に資金が配分される
  - 資金市場の逼迫→金利の上昇→収益率の低い借手は締め出される
- 情報の非対称性の存在
  - 資金の超過需要 → 金利の上昇 → 良い借手を締め出し，悪い借手を市場に残す → デフォールトのリスク上昇 → 金利の上昇 → さらに良い借手を締め出し，悪い借手の割合の上昇
  - 逆選択が発生する可能性

保険市場における逆選択

- 事故確率に関する保険加入者と保険会社の間の情報の非対称性
  - 一般的には，加入者が情報上優位
  - 医療保険，年金保険，失業保険
- 保険会社が加入者の平均的な事故確率をもとに保険料を設定
  - 保険加入者のうち，最も事故確率の低い加入者は保険料が割高だと思い，保険から脱退するかもしれない
  - →加入者の事故確率の上昇
  - →次に事故確率の低い保険加入者の脱退 → 保険料の上昇　→ その次に事故確率の低い加入者の脱退
  - このような悪循環が続くと，保険市場そのものが機能しなくなってしまうかもしれない

逆選択

- 一種の外部性
- 中古車市場の例
  - 不良品の存在が良品に負の外部性を与える
  - 不良品である可能性があるため，良品本来の価格で売ることができない
- 保険市場
  - 事故確率の高い加入者が低い加入者に悪影響
  - 事故確率の低い加入者は高い保険料（もしくは低い給付）を押し付けられる
  - 一方，事故確率の高い加入者は，（保険が供給されれば）低い事故確率の加入者の存在によって，低い保険料（もしくは高い給付）という恩恵を得る

逆選択の解消方法

- シグナリング
  - 売手が情報上優位，買手が情報上劣位の場合
    - 売り手が良品に品質保証を付ける
    - →買手に良品であるとのシグナルを送る
    - シグナリングにも，もちろんコストがかかる
      - 労働市場で労働者本人の能力に関する情報の非対称性が重要であるかもしれない　→ 学歴は（本人の能力向上に貢献しなくとも）シグナルとなる
- 公的介入
  - 保険の場合 → 強制加入（公的年金，医療保険）
  - 資金市場　→ デフォルト・リスクの一部を政府が負担（政府による保証，公的金融機関による融資）
    - 中小企業，住宅ローン，教育ローン